

東京サミット合同記者会見における発言（要旨）

（昭和五十四年六月二十九日 東京・ホテルニューオータニ）

ただいまより合同記者会見を開催する。今回のサミットにも、内外から多数の報道陣の方々がお集まりになり、強い関心を示されたことに対し感謝申し上げます。

警備上の都合により取材上の不都合を生ぜしめたこともあったかもしれないが、悪しからずご了承願いたい。

過去二日間の会議は、きわめて有益であつたが、その成果を各地に報道し、理解していただくために報道陣の皆様の力に依存するところ大であり、皆さまの協力を切に願う次第である。

これから各首脳に順次発言いただきたいが、まず主人役を務めた自分から、全般的な評価につき申し上げます。

今回のサミットには、三人の新人が参加した。うち二人は最初の婦人宰相と、もつとも若い青年宰相である。二人ともその英知と魅力により会議の成功に貢献していただいた。三人目の新人は、若干年をとっている自分であるが、紹介は省略させていただきます。

半分近いメンバーの交替にも拘わらず、サミットが相互協力の精神を基礎に、きわめて親密な人間関係

を作り出すことができたことは、われわれの重要な収穫のひとつであった。

今回のサミットは、石油問題に世界中の関心が集まっている時期に開催され、これに対処するために、大胆かつ具体的な施策が話し合われるのでなければ失敗となるつと言われた。間もなくコミュニケーションが配布されると思うが、緊急な対策および中長期的観点からの対策双方の面で、世界の期待に応える合意が得られたものと思う。

日本の首相として一九八五年までにわたる長期の努力目標を具体的に掲げることは、相当勇気のいることだったが、石油不安という地球社会の問題に有効に対応しながら、わが国経済の安定的な基盤を作らなければならぬと考えた上での決断であった。

石油以外の分野においても、各国から、インフレ、雇用問題等を中心にインダストリアル・デモクラシー擁護のための長期的、基本的対策に強い関心が示されたことは力強い限りであった。

同時に、先進工業国自身が経済的に苦しい時期にあるにも拘わらず、発展途上国との関係に大きな関心の表明が行われたことにも力づけられた。世界経済はまさに一体である。南北の間で新たな責任感と新たなパートナーシップを分つことによつて、建設的な協力関係を推進したいと思う。

次に、今回のサミットにおいて、前回のボン・サミットで取り上げられた航空機のハイジャックに関する宣言の取扱いについて協議した結果、自分から東京サミットの議長として、合同記者会見でステートメントを発表することとなった。

また、今次サミットでインドシナ難民問題につき特別声明が採択されたことは、大きな収穫であった。

日本自身もこの問題の解決にできるだけ協力しなければならないと思うが、自分は、右声明を他の諸国および関係国際機関に伝達し、これら諸国および諸機関が本問題についての国際的努力への参加を強化するよう呼びかけることとしたい。

わが国にとって前例のない重要な国際行事であった東京サミットも、こうして無事終了することができた。来年は、満場一致でイタリアにおいてサミットを開催することとし、イタリアでの再会を約して、先ほど今次サミットを閉会した。

この席を借りて、この会議を支持して下さった参加国の内外の皆さまに心より感謝申し上げます。

なお、このサミットの開催に関連して、いまだかつてない周到な警備体制を取らせていただいた。このため、国民の皆さまに公私にわたり大変なご迷惑をおかけしたが、お蔭で成功裡に会議を終了できた。この機会に厚くお礼申し上げます。

物価安定政策会議第九回総会における挨拶

(東京サミットに関する部分)

(昭和五十四年七月三日 総理大臣官邸大ホール)

まず、先週行われました先進国首脳会議の結果をご報告いたしたいと思えます。

この先進国首脳会議は、一九七五年十一月、パリ郊外のランブイエの会議を第一回と致しまして、毎年一回、先進国首脳が一堂に会し、「成長・雇用・インフレなどのマクロ経済問題」、「通商貿易問題」、「国際通貨問題」、「南北問題」、「エネルギー問題」など当面の国際経済上の重要課題について、率直かつ精力的に討議し、協調的解決の途を探索してまいりました。

今回の東京サミットにおきましては、すでに報せられておりますように、イラン革命を契機として最近の石油情勢が世界経済に緊張を呼ぶ問題となり、エネルギー問題が討議の中心となりました。

ボン・サミット後の世界経済について見ますと、先進各国の協調的行動が実を結びかけ、全般的には改善の方向を辿りつつありましたが、多くの国において鎮静化しつつあったインフレーションが、最近、再び勢いを得つつあり、とくに、最近の石油情勢は、世界経済の前途に大きな問題を投げかけております。

先進国の経済は、石油の上になり立っていると考えられるわけですが、そのような先進国文明の基盤が大きく揺り動かされている歴史的な時期において、石油消費の七割を占める先進七カ国の首脳が事態に対する認識を共通にし、断固たる具体的措置についての合意が得られたことは意義あることであつたと思ひます。

サミットにおきましては、各国の立場から真剣かつ白熱した議論がなされましたが、短期の石油輸入量については、国際エネルギー機関（IEA）において合意をみた一九七九年の消費節約を確実に反映した輸入水準を実現し、また一九八〇年の輸入を一九七八年ないし一九七九年の水準以下にすることに合意を見ました。それに止まらず長期的な政策指針を明らかにするため、一九八五年の目標を掲げることとし、アメリカ、ヨーロッパについては、七七年もしくは七九年の水準ないしは七八年の水準とし、日本については一日当たり六百三十万バレルから六百九十万バレルの間の範囲を越えない水準を採用することとしました。

今後、各国は、石油消費の節約、エネルギー利用の効率化と、代替エネルギー源の開発に精力的に取り組み、石油輸入を削減するよう最善を尽すことに意見を共通にしたのであります。加えて、各国は、石炭の利用・生産・貿易及び原子力利用の拡大などの代替エネルギー源の開発にあたって国際的な協力を一層推進していくことに合意いたしました。

またインフレの挑戦、デフレの回避などにも熱心に議論がありました。インフレなき成長を達成するため、ボン・サミットにおいて合意された政策を現在の状況が反映するように調整しつつ、継続するとともに

に、各国経済の長期的な生産効率及び柔軟性を向上させるため、研究開発を促進すること等に一層努力することに見解の一致を見ました。

通商・貿易問題につきましては、保護主義を排除し、東京ラウンドにおける諸合意を早期かつ誠実に実施することとし、通貨問題につきましても、最近における国際的協調の成功をさらに推進するため、為替市場分野での緊密な協力を継続することといたしました。

南北問題につきましては、建設的な南北関係は世界経済の健全さのための条件であるとの認識のもとに、開発途上国に対する資金の流れを増大させ、食糧開発、潜在エネルギー開発、人づくり等に重点的に援助していくことになりました。

以上、東京サミットの経過を簡単に述べましたが、今回討議されたどの問題も今後の世界経済の発展に基本的に重要であり、日本経済の世界経済に占める地位を考えますと、わが国として、これら共同宣言にもりこまれた事項を着実に実施していくことこそ、世界経済の安定に資するものと考えられます。

大平さんの東京サミットレポート（サミットに関する部分）

内閣総理大臣 大平正芳

日本商工会議所会頭 永野重雄

服飾デザイナー 森 英恵

（昭和五十四年六月三十日）

総理は、今度の各国首脳、それぞれ印象をお持ちだと思っただけですけども、ひとつそれを紹介していただませんか。

大平 元首が二人おられましたね。ジスカールデスタン・フランス大統領とアメリカのカーター大統領、二人とも五十三、四歳ですわね。分別盛り、働き盛り。そして、その二人にドイツのシュミット首相が加わって火花を散らす大激論を拝聴させていただきましたが、おもしろかったですね。全然遠慮しないで、フアーストネームで呼びあって、その場にいたたまれないような勢いでやっておるかと思うと、その問題が済むとまたけるつとして、ヨーロッパ人のあいう慣行というのはすばらしいと思いました。

総理にはフアーストネームでは向こうは呼びませんでしょう。

大平 それは呼びませんね。

やはりプライムミニスター大平……

大平 そつです。

それからサツチャー首相は非常に美人でもあるし、すばらしい頭腦の持主ですね。おっしゃつておることに全然むだがない。立て板に水を流したようにお話しになるけれども、あれはそのまますばらしい文章ですね。イントネーションもびしつと決まつていて、鉄のような強い意志をもつた方だと言われておりますけれども、女の宰相と言われるのを非常にきらつて、大英帝国の総理大臣であるという誇りと自信をもつていて、すばらしいですね。

それからクラークという四十歳のカナダの宰相は大変魅力がありましたね。非常に素直な人で、みんなに好意をもつて迎えられたんじゃないでしょうか。

イタリアのアンドレオッチという人は、非常に謙虚であまり出しゃばらない方ですけれども、しかし、主張するところは主張し、イタリアの利益をちゃんと守つておる。限界を心得た人ですね。

どうですか、永野さん、このサミットを振り返られて大平総理評を一つ。

永野 私、正直言いまして、お世辞でなしによかつたと。今度参加されたのは、日本にとつてよかつただけじゃなくつて、アジアにとつてよかつた。今度あれだけの大国のトップの人たちを日本の東京にきてもらつて、堂々と意見を主張したというのをアジア人全体から見ても、われわれの仲間である日本人の大平氏がやつたんだというので、決して色の区別などはなくて、ここまでやれるんだという自信をもつてくれたであらうし、その意味で喜んだんじゃないでしょうか。だから、いろいろな意味で、私は、非常に良かったと思ひますがね。

大平 おいでになった方々は、日本人というもののもつデリカシーというもの、出される食事の味、それからいろんなことに関する細かい配慮、警護も非常に厳重で過剰警備だと言われましたけれども、まあそこは非常に安心しておられる。その日本人の持つすばらしさ、それはみんな一様に評価していましたね。

それから、皇居においていただいて両陛下にお目にかかれて、一緒に写真もとられたりお食事も召し上がっていただいたわけですけども、陛下にお目にかかったということが非常に感激だったようですね。陛下もまた非常によくおつとめいただきましてね。二、三時間、皇居ですばらしい時間をもつことができたということを非常に喜んでましたね。だから、日本というのは、全体として捨てがたい良さをもった国じゃないでしょうか。

それから皇居のつくり方が清潔で、あまりこたこたつくってないんですね。非常にこう簡素なつくり方でしょう。清楚という感じね。それからそこに置いてある置物とか額とか生花とか、そうたくさんはありませんが、実に清楚な感じ、清潔な感じ、それがたまたまなく魅力的だったようです。

私は二十九日のお昼でしたかな、昼食に皆さんをお誘いになられるときに総理の様子を見ておったんです。二十八日の日は背広がきちっとしてまして、まあ正直言うとお大平さんらしくなかった。二十九日の日は本当に大平さんらしくなかったですな。相当にやはり乱れてましたよ。後からわかったんですが、二十九日の日というのは大変だったそうですね。ひよっとすると日本が孤立するんじゃないかというような状態だったように聞きましたが、その辺はいかがですか。

大平 それは孤立するというか、つまり各国とも一九八五年の輸入目標を数字であらわすと言っただけです。

私どもは、そんな余裕はありませんし、今年、来年どうするかが大変なんでしてね。そして、八五年をいまの水準で押さえ込まれるというようなことになるよ、この日本は成長盛りの子供みたいなものだからね、これから相当大きくなるのに、そのときに着る着物はこれだぞと示されるようなものですから、それではぼくの内閣もたんと、そんなことでは日本に経済的な混乱が起こるかもしれないと、下手なことをするとパニックみたいな状態が起こるかもしれないというようなことをいろいろ考えておりましたが、みんな自信を持って一九八五年のところまでだけと言つてしよう。こつちだけが何か蚊屋の外なんでね。

それで、私は、彼らにどうしても数字を出せと言つたら相当大きな数字になると、日本だけがよいやられたんじゃ困ると言うに違いないし、出さないとならば、この東京サミットはもう失敗でここでもう壊れてしまうので、実はいまもここで皆さんと一緒に馳走食べているんだけれども、それどころでないんだよというて話しおつたんですよ。そうしたら、そう心配せんでまあ適当な数字出しておきなさいよというふうなことです。しかし、どこまであなた方が承知ができるかなあ、そこを見きわめるので、いままだ非常に胸がつかえておるんだがと言つたわけですよ。

しかし、一応日本の置かれた状態というのを分かつておつてくれたんでしようね。それで、本会議になりました、私がいよいよもうこれで日本はいくと決心したからご理解を求めるとやつたら、真つ先にカーターさんが賛成してくれて、ジスカーール大統領もシユミットさんも、皆それでわれわれは異存ないと、こう言うてくれたんですが、ほつとしましたね、私は、あれが確かに一日当たり五百四十万バレルとか五百五十万バレルとかと出したら大変だつたと思う。

つまり、いまの水準で押さえ込まれてしまうと、日本は石油の生産国じゃないんだから。ECには北海油田というのがあつた。サッチャーさんの足元にあるわけで、あれがクッションになつてリザーブになつておるわけですからね。アメリカ、カナダは、まあ老いたりといえども油田をたくさんもつておるわけですからね。それから、ほかの代替資源も石炭はたくさんもつておるし、オイルサンドとかたくさんあるでしょう。日本は全く何も無いんだから。

それで、石油から脱却してほかのエネルギーに頼るだけの時間がないと困るし、その間にそれを必ずやり遂げていく自信がなければならぬのに、八五年はこれだぞと決められてしまうと、これは全く動きがつかないよと思つてね。

それで、あの日はサミットと言つけれども、二十八日の昼ね、三時間ほど昼食を食べながら、ごくお粗末な食事であつたんですけれども、それをいただきながらホットな議論が始まつちゃつて、それで時間がたつて、もう本会議に行きましようと言つても、いやここでやればいいというので、それで四時までやつて、それと翌二十九日の日本料理を差し上げた、日本間の方でやつたのと、この二つが山だったような感じがするな。

—まあとにかく日本の必要な分量・具体的に言えば新経済七カ年計画の量は確保されたということですが、産油国も油がなくなれば非産油国になるわけで、これと先進国と一緒に代替エネルギーの開発をやるというような議論はなかつたですか。

大平 いや、それはやるんです。OPECの方に代替エネルギーの開発で協力してますわね。サウジなん

かでも原子力の開発その他始めていますわね。だから、それはおっしゃるとおりですよ。もう全世界的な課題だから。

永野 世界的な共通の大問題を論議する性格のはずのサミット会談というので、石油問題にあれだけのウエートが置かれ時間がかけられ、それからいまおっしゃったような激論があったということは、結局、将来の子孫の時代まで含めてこのエネルギー問題がこれだけ大事なんだと、そのための対策をこれからスタートするということだったと私は思っています。そこで総理にお願いしたいんですが、技術の研究のために予算を十分に裏づけをするとかいうような問題も、ぜひ一つ指導をお願いしたいと思います。

大平 それはね。一つは石油のエネルギーというのをだんだん減らしていつてほかの方で代替させていく石炭で、あるいは原子力で、まあ水力、地熱なんかは限度がありますけれども、いろいろな手だてを講じてやることと、それからエネルギーの節約と効率的な使用、そういうようなことをまずやるのが第一だが、やはりわれわれの生活が石油の中にとっぶりつかってしまっていること、石油がいつまでたっても安かったために、これが問題だと思っんですよ。

この間調べてみますとね、石油価格は、一九三〇年から全然変わってませんね。二ドル二、三十セントです。ついでこの間まで、およそほかの物価は上がっているのに石油だけは不思議に安定した値段だった。それだから、みんなこれなら大丈夫だというので、石油依存に産業も生活も変わってしまっただけです。

ところが、これは、空気みたいなもので、おとなしいときには空気なんか気がつきませんけれども、嵐になると、これが急流のようになるのと同じように、こうなってくると、石油というのはえらい問題にな

る。困りましたね。

森さんのデザインの中には、かなり化学繊維を基礎にしたアイデアが多いんでしょう。

森 化学繊維は、もともと自然繊維を補つたためにつくられたものですけれども、安いということのほかに、しわにならなかつたり、扱いが楽だつたり洗濯が簡単だつたりということ、すっかりとつぷりと私たちが生活の中に入っております。

ですけれども、化学繊維でなくてもいいものもたくさんあるわけですから、もう一度このあたりで自然の繊維というものを見直して、化学繊維の丈夫さが必要なものにだけ化学繊維を使って、もう少しほんどん着捨てていくという生活から……。

大平 その切りかえですが、これは、産業界も一般の消費者も同じなんですけれども、あまりこれはえらいことだと思わないで、ちょうど夏が過ぎて秋になれば、秋に応じた着物を着るように、世の中が変わってきたら、それに対してわれわれも生き方を変えるんだと、これは当然のことだけれども、やる以上は明るく愉快にやるうじゃないかと、そういうふうにはくはやりたいと思ふんです。

永野 私はね、今後、論議され、決定された八五年の日本の数字、これでやりようによってはやれると思ふんです。これ幾らよこせという交渉のときは、先ほど来ほかの元首の例が出ておりましたけれども、それは大平総理にまだまだこの方法でと言うことがあるかもしれませぬけれども、これで決まったら、今度は、国民に対して、これでやるうじゃないかという決意をお述べになればよろしい。

いまおっしゃるように、私は、数年前に石油がいまの値段になったときに、これはもう日本の経済は破

滅だと、えらいことだと思った。しかし、かなり苦勞はしましたけれども、とにかくあの苦難を三年ぐら
いのところ克服しましたね。今度の問題は、あの克服した苦難のことを思えば、腹を決めればやれると
思いますがね。また、やれなければいかん。

永野ドクターのご診断がありましたから、総理、これは安心していいですね。

大平 この前、石油が四倍の値段になったときに、私は、世界はこんな石油が四倍にもなつては大変だ
と、日本のような国はみずからの石油資源を持ってないんだから、これはもう恐らくまいってしまうじ
やないかと日本人自身も考えたし、よそから見ている方々も世界の諸国民がそう考えただろうと思つん
です。ところが、この四年間の経過を見ますと、ちゃんとできたんですね。えらいものだと思つん
です。